# 第２部　20 歳未満の子どもを養育するひとり親世帯

## 第１章　調査対象世帯の概況

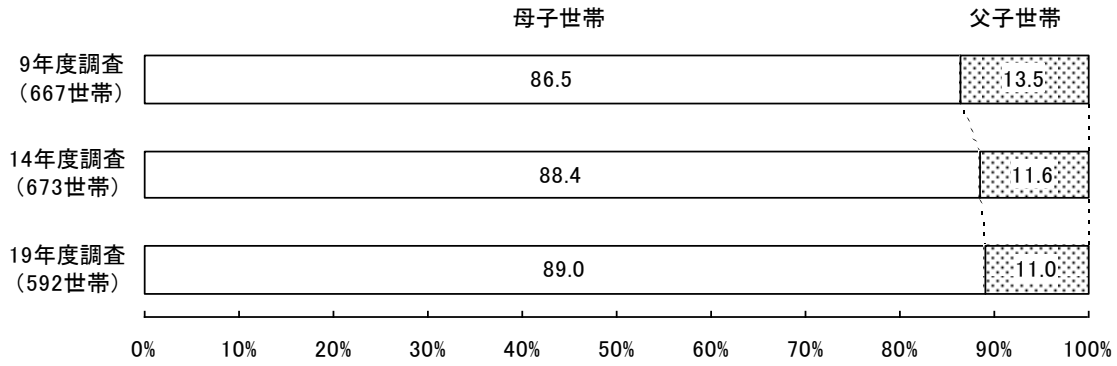
本章では、20 歳未満の子どもを養育するひとり親世帯 592 世帯の概況並びにその子ども 948 人の概況について述べる。

### １　世帯の状況

#### （１）　世帯類型－過去調査との比較

調査対象世帯の世帯類型（母子・父子世帯）をみると、「母子世帯」が 89.0％で、「父子世帯」が 11.0％である。（図Ⅱ-1-1）

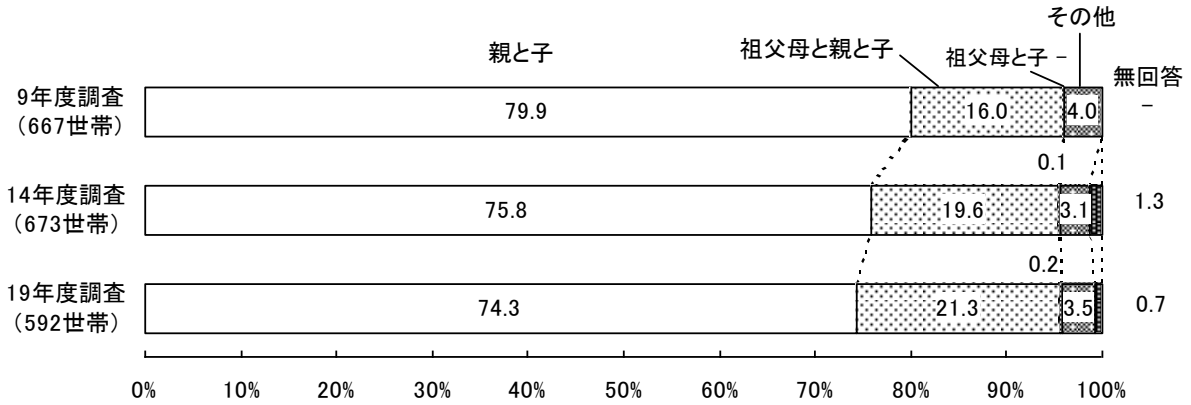
図Ⅱ-1-1　世帯類型－過去調査との比較




#### （２）　家族類型－過去調査との比較

家族類型をみると、「親と子」が 74.3％で、「祖父母と親と子」が 21.3％となっており、「祖父母と親と子」の三世代の割合が平成９年から連続して上昇している。（図Ⅱ-1-2）

図Ⅱ-1-2　家族類型－過去調査との比較

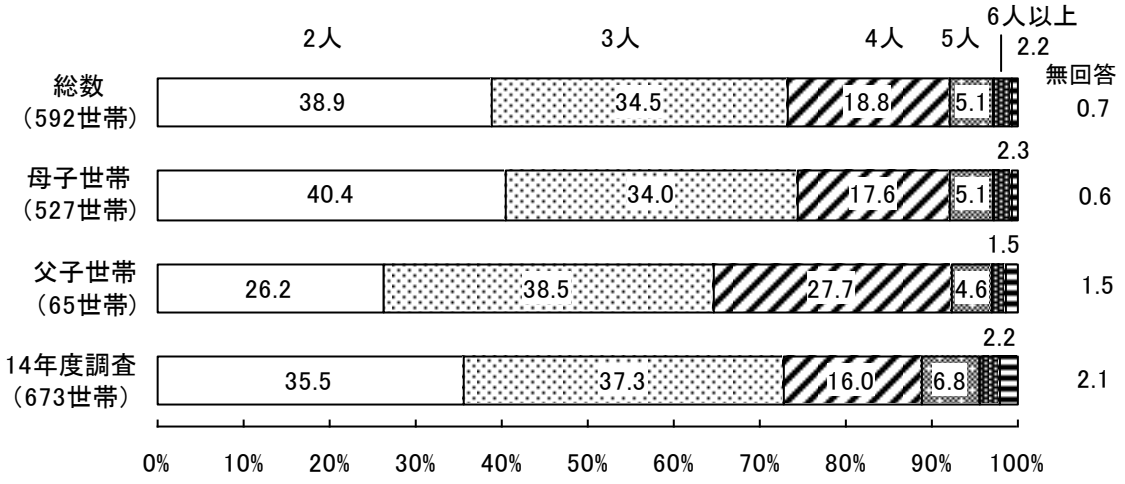


### （3） 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別

世帯人員をみると、「2 人」の割合が 38.9%で最も高く、次いで「3 人」の割合が 34.5%と高くなっている。

母子世帯では、「2 人」の割合が、40.4%と 4 割を超えている。（図Ⅱ-1-3）

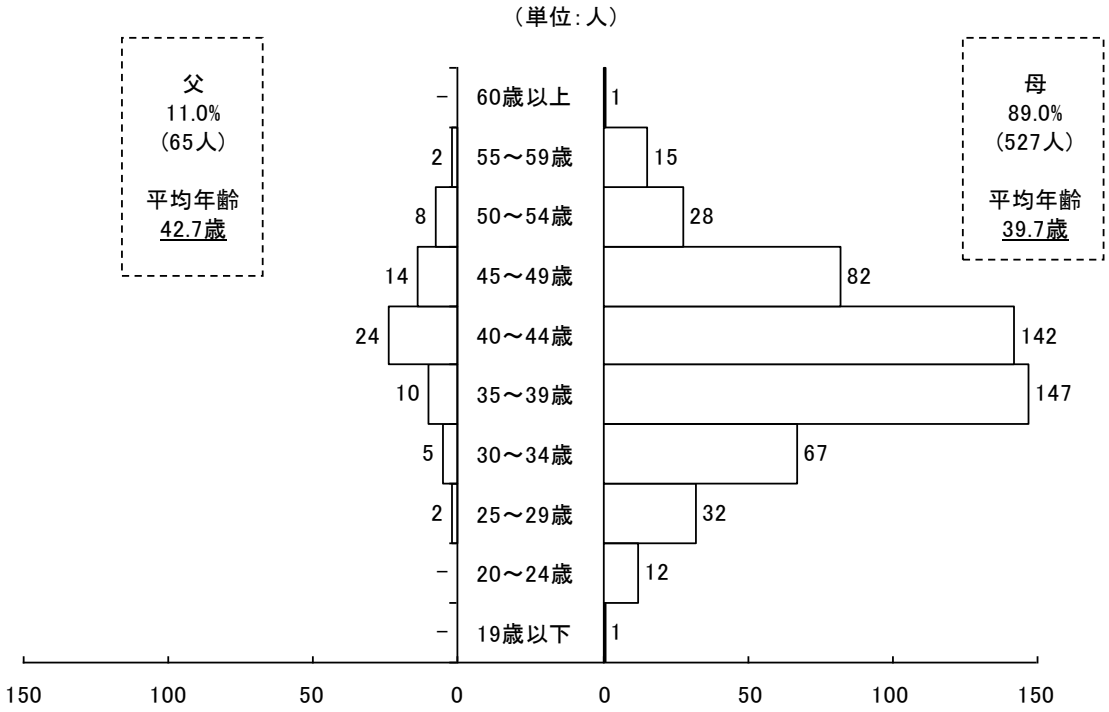
**図Ⅱ-1-3　世帯人数－世帯類型（母子・父子世帯）別**




### 2　父母の年齢階級

父母の年齢階級をみると、母親は「35～39 歳」が最も多く 147 人、次いで「40～44 歳」が 142 人である。父親は「40～44 歳」が最も多く 24 人であった。（図Ⅱ-1-4）

**図Ⅱ-1-4　家族類型－過去調査との比較**

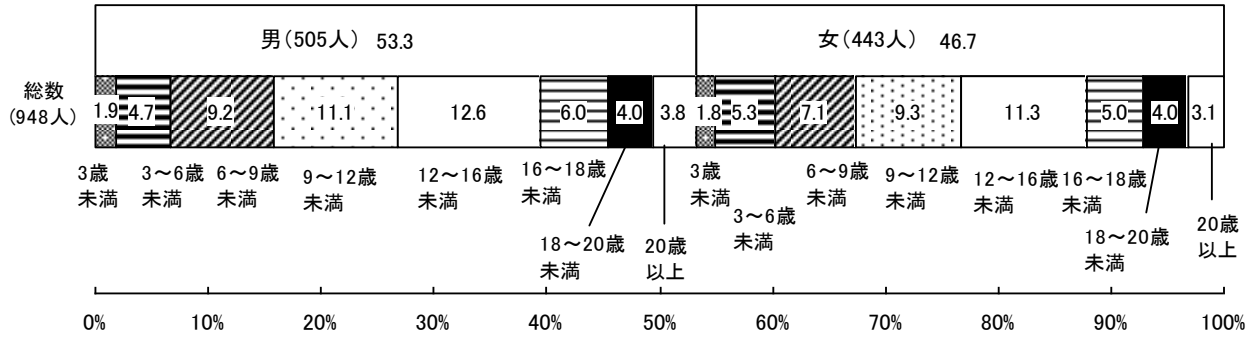


## 3　子どもの状況

### （1）　子どもの性・年齢階級

対象世帯の子どもの総数は 948 人で、男子 505 人、女子 443 人である。（図Ⅱ-1-5）

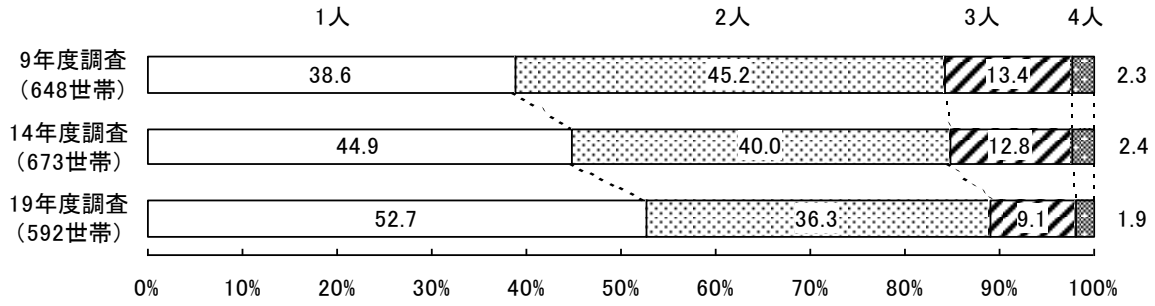
図Ⅱ-1-5　子どもの性・年齢階級




### （2）　子どもの人数－前回調査との比較

子どもの人数をみると、「１人」の割合が最も高く、52.7％と半数を超え、前回調査と比べ 7.8 ポイント上昇している。（図Ⅱ-1-6）

図Ⅱ-1-6　子どもの人数－前回調査との比較

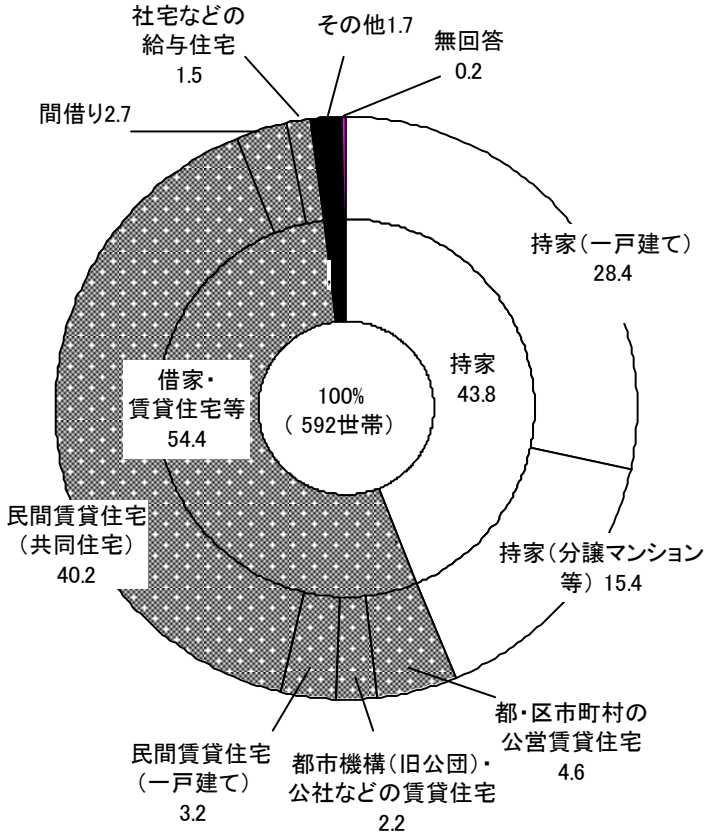


## 4　住居の状況

### （1）　住居の種類

住居の種類をみると、「持家」が 43.8%、「借家・賃貸住宅等」が 54.4%となっている。（図Ⅱ-1-7）

図Ⅱ-1-7　住居の種類




### （2）　住居の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

住居の種類を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では「借家・賃貸住宅等」の割合が 57.9%と高い。（表Ⅱ-1-1）

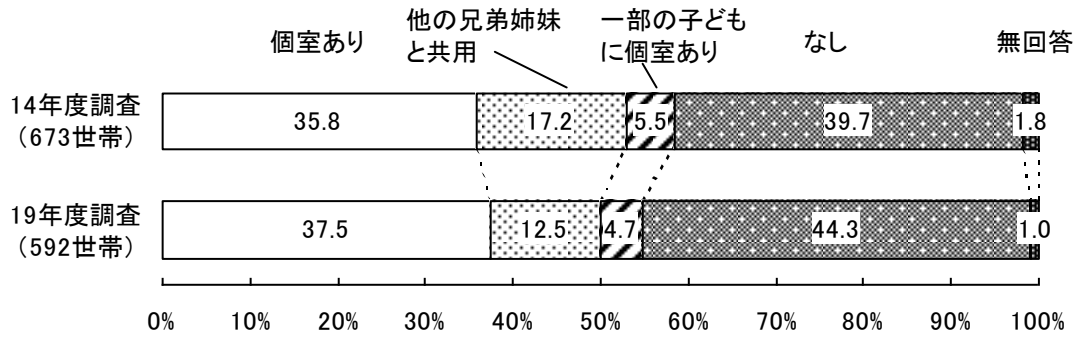
表Ⅱ-1-1　住居の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

| | 総数 | 持家 | 持家（一戸建て） | 持家（分譲マンション等） | 借家・賃貸住宅等 | 都・区市町村の公営賃貸住宅 | 都市機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅 | 民間賃貸住宅（一戸建て） | 民間賃貸住宅（共同住宅） | 間借り | 社宅などの給与住宅 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0<br>(592) | 43.8 | 28.4 | 15.4 | 54.4 | 4.6 | 2.2 | 3.2 | 40.2 | 2.7 | 1.5 | 1.7 | 0.2 |
| 母子世帯 | 100.0<br>(527) | 40.0 | 25.0 | 15.0 | 57.9 | 4.7 | 2.1 | 3.2 | 43.5 | 3.0 | 1.3 | 1.9 | 0.2 |
| 父子世帯 | 100.0<br>(65) | 73.8 | 55.4 | 18.5 | 26.2 | 3.1 | 3.1 | 3.1 | 13.8 | － | 3.1 | － | － |

### （3） 子ども部屋の有無－前回調査との比較

子ども部屋の有無を聞いたところ、「なし」の割合が 44.3%と最も高く、前回調査比べて 4.6 ポイント上がった。（図Ⅱ-1-8）

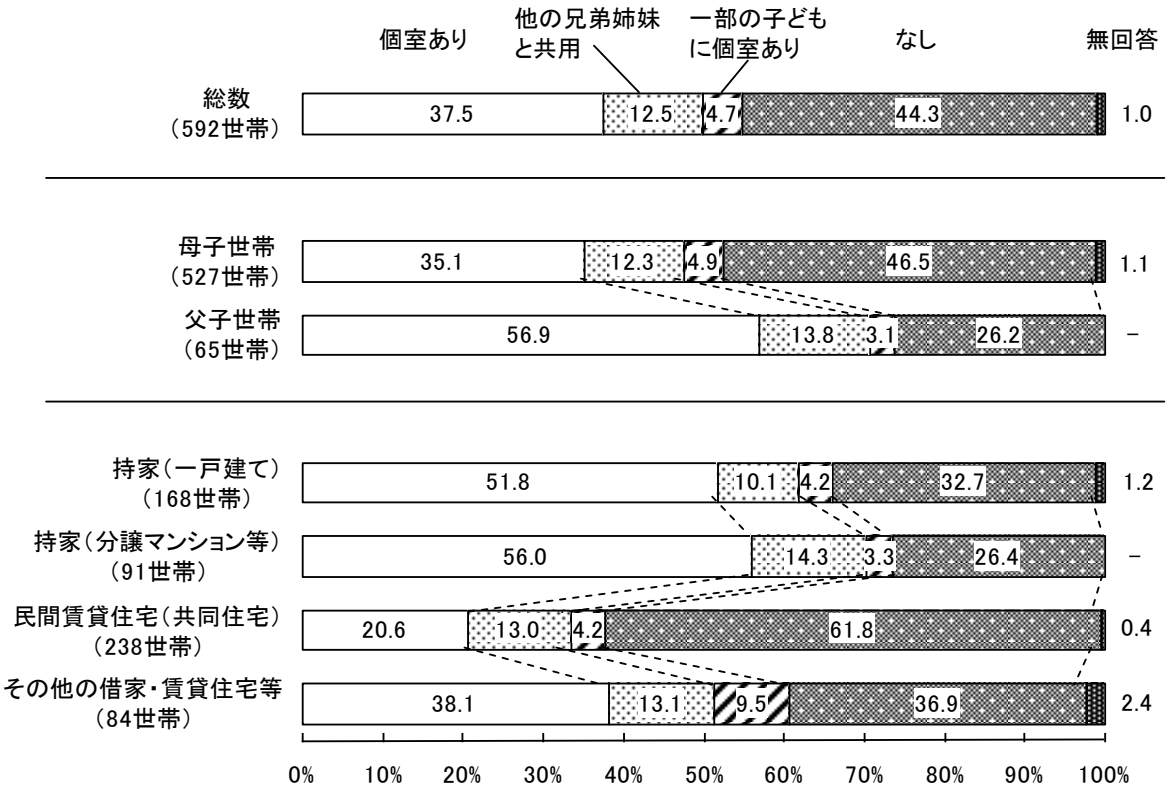
図Ⅱ-1-8　子ども部屋の有無－前回調査との比較




### （4） 子ども部屋の有無－世帯類型（母子・父子世帯）、住居の種類別

子ども部屋の有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では「なし」の割合が 46.5%で最も高いが、父子世帯は「個室あり」が 56.9%と最も高くなっている。また、住居の種類別にみると、持家（一戸建て）、持家（分譲マンション等）では「個室あり」の割合がそれぞれ 51.8%、56.0%と半数を超えているが、民間賃貸住宅では「なし」が 61.8%と 6 割を超えている。（図Ⅱ-1-9）

図Ⅱ-1-9　子ども部屋の有無－世帯類型（母子・父子世帯）、住居の種類別

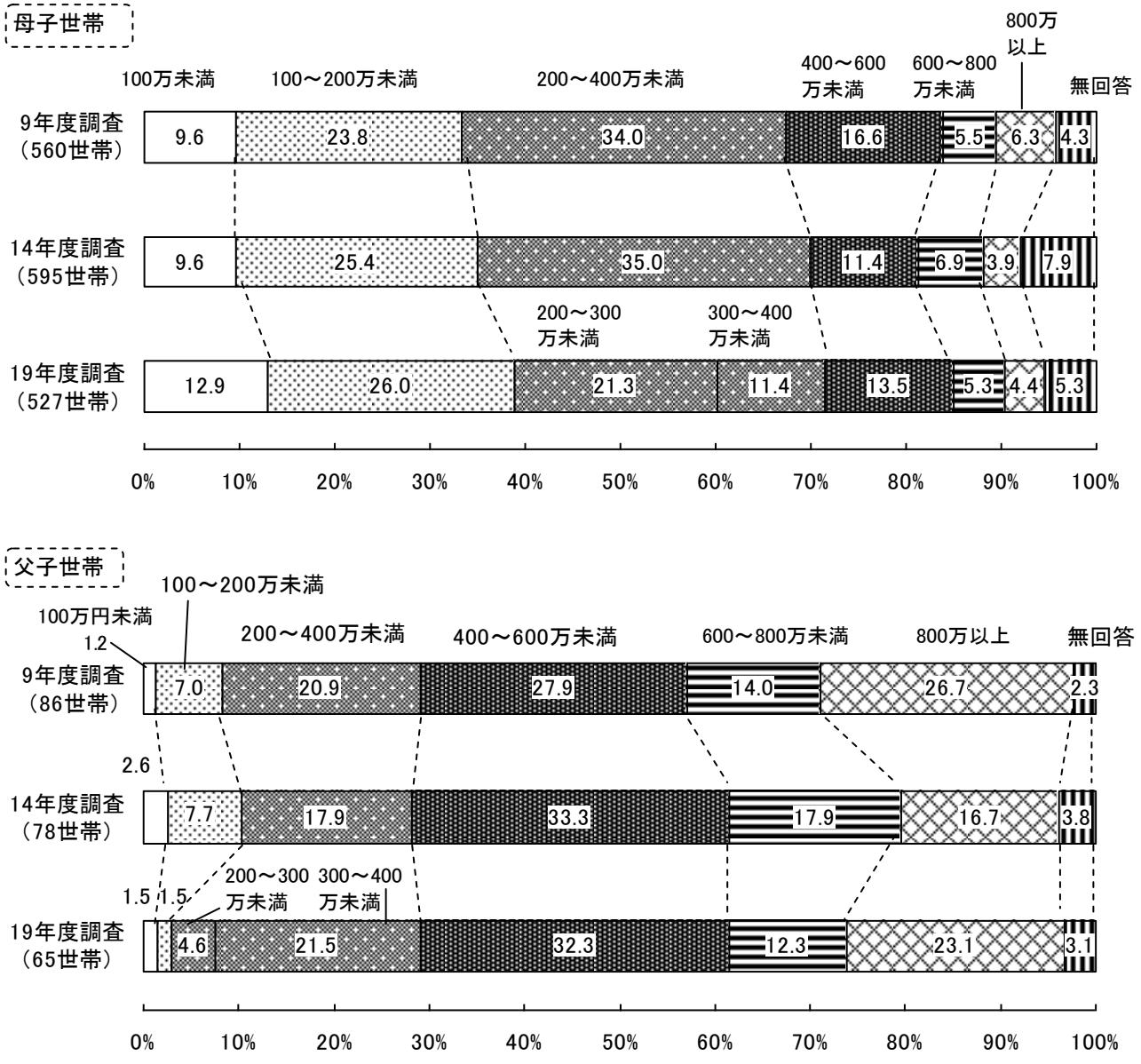


## ５　世帯収入の状況

### （１）　世帯の年間収入－過去調査との比較

世帯の年間収入を過去調査と比較すると、母子世帯では、「100 万円未満」の割合が、9 年度調査、14 年度調査と比較して 3.3 ポイント上昇している。また、「100～200 万円未満」の割合も 9 年度調査から連続して上がっており、「100 万円未満」と「100～200 万円未満」をあわせた 200 万円未満の割合は 38.9％となった。（図Ⅱ-1-10）

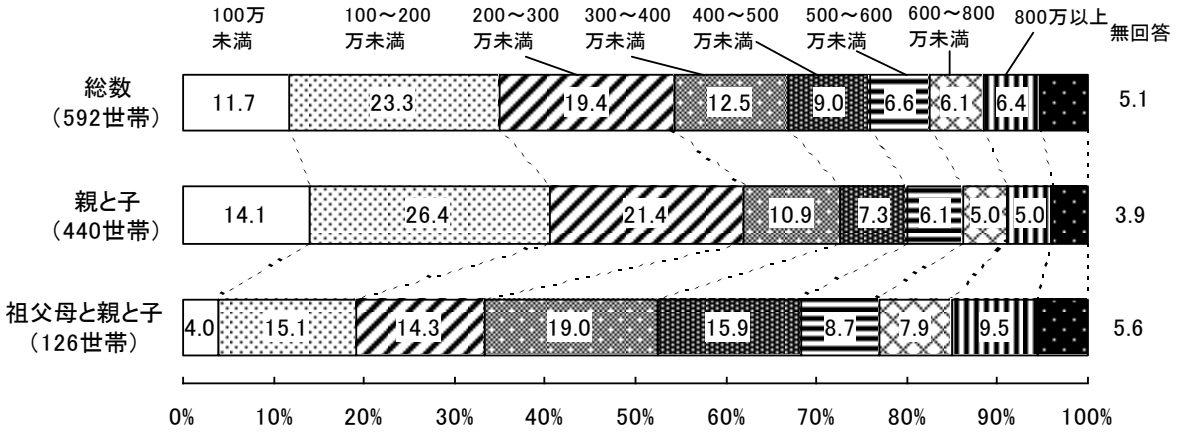
図Ⅱ-1-10　世帯の年間収入－過去調査との比較



### （2） 世帯の年間収入－家族類型別

世帯の年間収入を家族類型別にみると、親と子の世帯では、「100～200 万円未満」の割合が最も高く 26.4%で、「300 万円未満」の世帯が 61.9%と 6 割を超えている。祖父母と親と子の世帯では、「300～400 万円未満」の割合が 19.0%と最も高くなっている。（図Ⅱ-1-11）

図Ⅱ-1-11　世帯の年間収入－家族類型別




### （3） 主な世帯収入の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

主な世帯収入の種類をみると、「賃金・給料」の割合が 77.2%で最も高く、次いで「生活保護費」が 5.2%と続いた。（表Ⅱ-1-2）

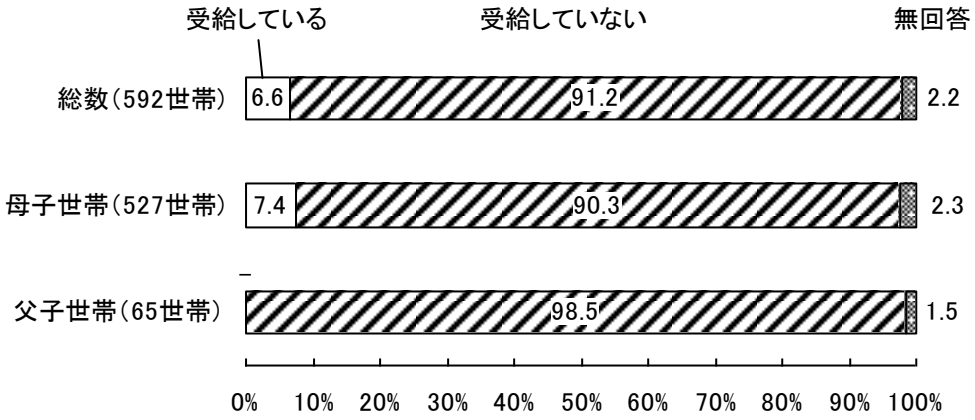
表Ⅱ-1-2　主な世帯収入の種類－世帯類型（母子・父子世帯）別

| | 総数 | 賃金・給料 | 事業所得 | 内職収入 | 家賃・地代 | 利子・配当 | 仕送り | 養育費・慰謝料 | 年金・恩給 | 生活保護費 | その他の社会保障給付金 | 雇用保険 | その他の収入 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0 (592) | 77.2 | 4.2 | 0.2 | 1.0 | 0.2 | 1.0 | 1.2 | 2.5 | 5.2 | 2.5 | 0.3 | 1.7 | 2.7 |
| 母子世帯 | 100.0 (527) | 76.3 | 3.6 | 0.2 | 0.9 | 0.2 | 1.1 | 1.3 | 2.7 | 5.9 | 2.8 | 0.2 | 1.9 | 2.8 |
| 母子のみの世帯 | 100.0 (402) | 76.1 | 3.2 | 0.2 | 0.7 | 0.2 | 1.5 | 1.5 | 1.7 | 7.0 | 3.7 | 0.2 | 1.5 | 2.2 |
| その他 | 100.0 (122) | 78.7 | 4.9 | － | 1.6 | － | － | 0.8 | 5.7 | 2.5 | － | － | 3.3 | 2.5 |
| 父子世帯 | 100.0 (65) | 84.6 | 9.2 | － | 1.5 | － | － | － | 1.5 | － | － | 1.5 | － | 1.5 |
| 父子のみの世帯 | 100.0 (38) | 92.1 | 7.9 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| その他 | 100.0 (26) | 76.9 | 11.5 | － | 3.8 | － | － | － | 3.8 | － | － | 3.8 | － | － |
| 14年度調査 | 100.0 (673) | 78.0 | 5.8 | 1.2 | 1.2 | 0.1 | 0.9 | 1.6 | 3.3 | 3.7 | 0.7 | － | 0.4 | 3.0 |

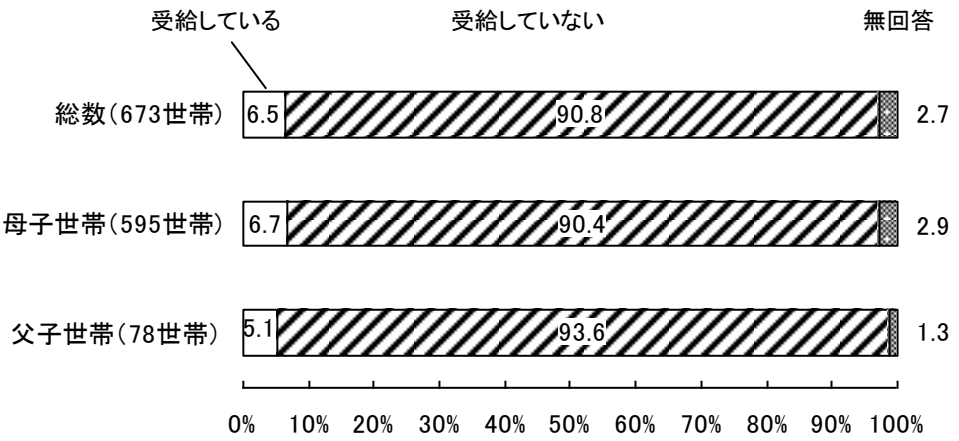
（４） 生活保護の受給の有無－世帯類型（母子・父子世帯）別

生活保護の受給の有無を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では、「生活保護を受給している」世帯の割合が 7.4％であった。（図Ⅱ-1-12）

図Ⅱ-1-12　生活保護の受給の有無（19 年度調査）－世帯類型（母子・父子世帯）別




図Ⅱ-1-13　生活保護の受給の有無（14 年度調査）－世帯類型（母子・父子世帯）別



## 参考「母子・父子世帯の推移等」

都内の母子世帯は、平成2年には5万3千世帯であったが、平成17年には6万6千世帯に増加した。父子世帯は、平成2年には9千7百世帯が、平成17年には8千4百世帯に減少している。(図 参考8)

母子世帯の母の年齢別推移をみると、25～34歳の年齢は平成17年では21.4%で、平成2年よりも6.3ポイント増加している。(図 参考9) 1番下の子どもの年齢別推移をみると6歳未満の年齢が年々増加しており、母子世帯における子どもの低年齢化が進んでいる。(図 参考10)

図 参考8　母子・父子世帯の推移（東京都・全国）

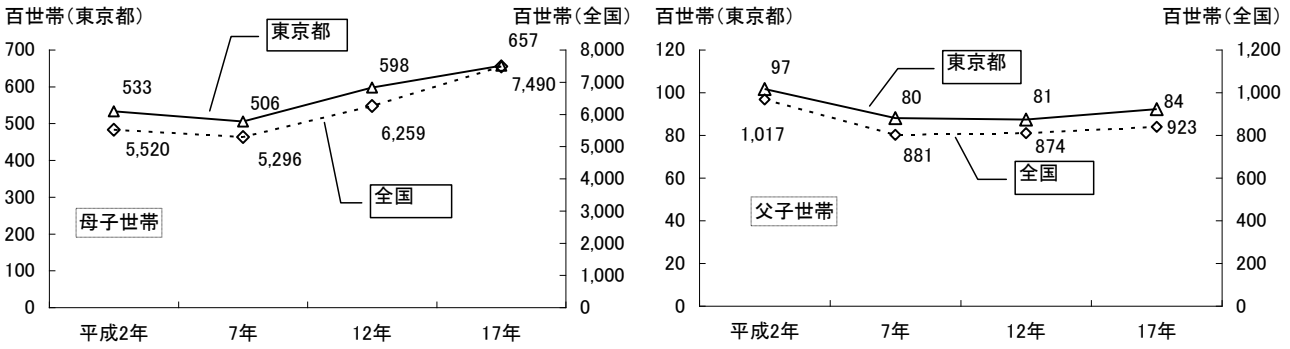



図 参考9　母子世帯の母の年齢別推移（東京都）

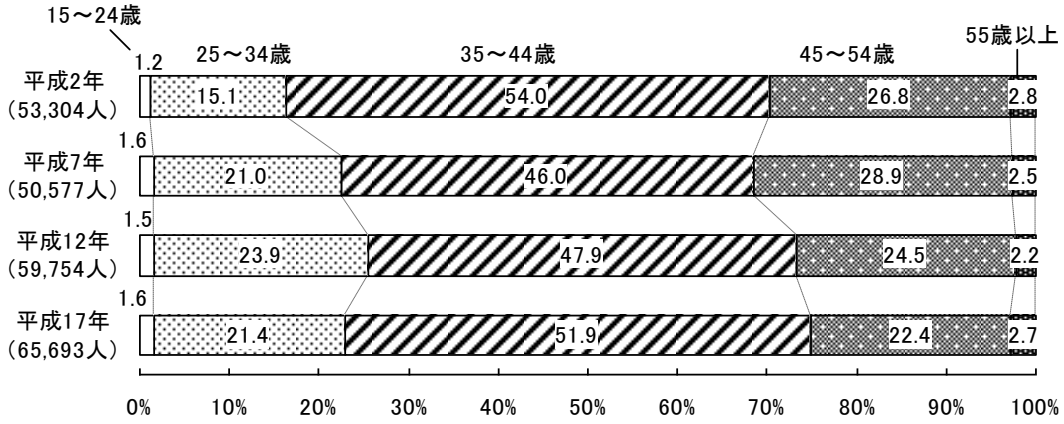
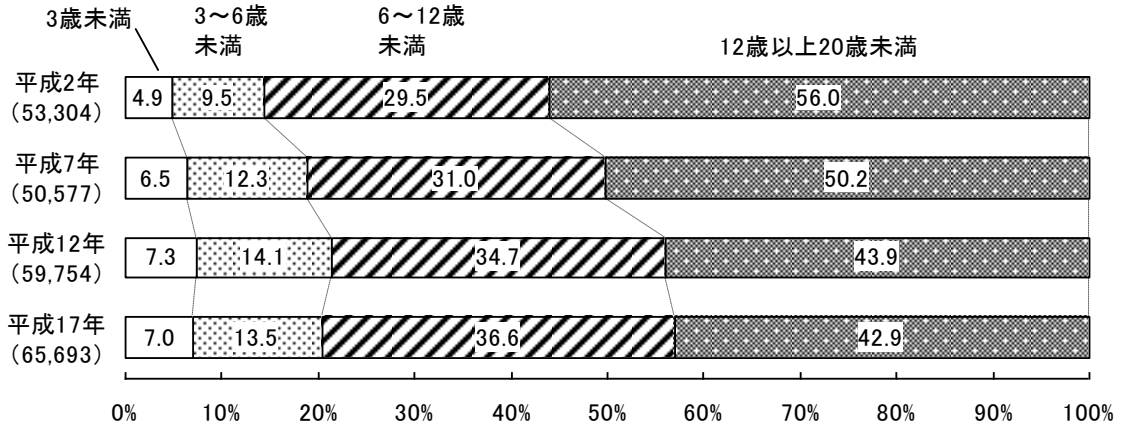



図 参考10　母子世帯の一番下の子の年齢別推移（東京都）




資料：国勢調査（総務省）

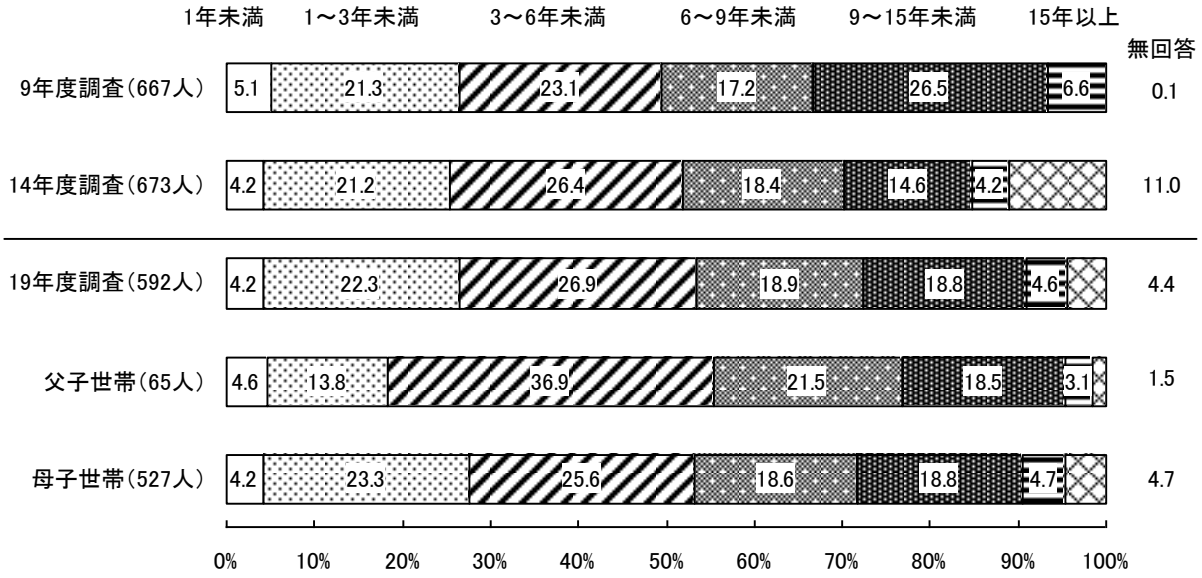
## 第２章　ひとり親世帯になった当時、現在の状況

### １　ひとり親世帯になってからの年数－過去調査との比較

ひとり親になってからの年数は「3～6 年未満」の割合が最も高く 26.9%、次いで「1～3 年未満」の 22.3%と続いた。(図Ⅱ-2-1)

問　平成 19 年 10 月 27 日現在で、ひとり親になっておよそ何年になりますか。

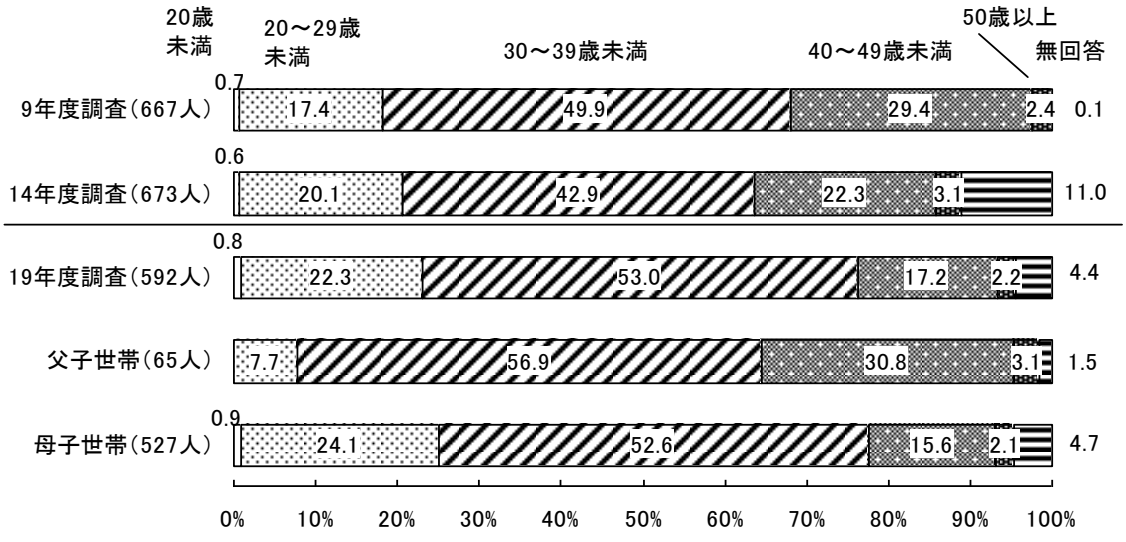
図Ⅱ-2-1　ひとり親世帯になってからの年数－過去調査との比較




### ２　ひとり親世帯になったときの親の年齢－過去調査との比較

ひとり親になった当時の親の年齢は、30 代が最も多く 53.0%、次いで 20 代の 22.3%で、30 代以下が 76.2%となっている。(図Ⅱ-2-2)

図Ⅱ-2-2　ひとり親世帯になったときの親の年齢－過去調査との比較



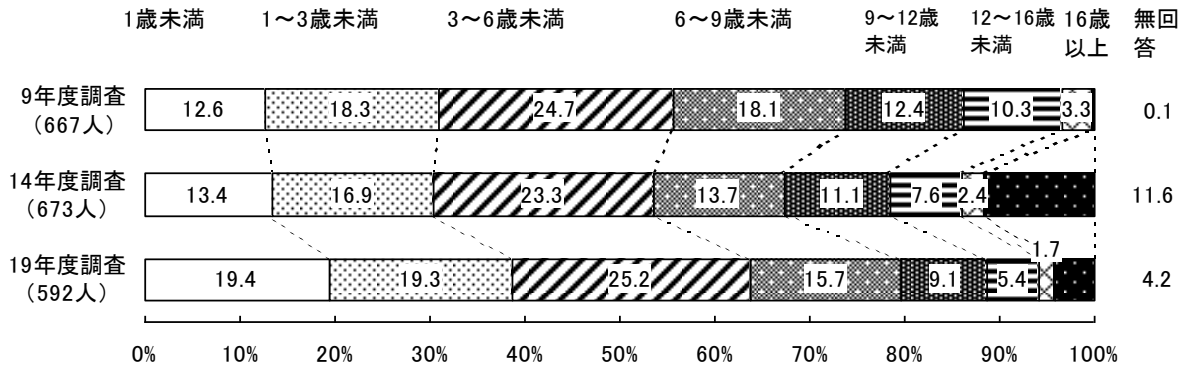
## 3　ひとり親世帯になったときの１番下の子どもの年齢－過去調査との比較

**ひとり親になったときの１番下の子どもの年齢が「3 歳未満」の割合は約４割**

ひとり親世帯になった当時の１番下の子どもの年齢は、「3～6 歳未満」の割合が 25.2%と最も高いが、「1 歳未満」の割合が 19.4%と２割近くであり、9 年度調査から連続して上がっている。「1 歳未満」と「1～3 歳未満」をあわせた 3 歳未満の割合は、前回調査よりも上昇して 38.7%となり、約４割となった。(図Ⅱ-2-3)

問　ひとり親になったとき、１番下のお子さんは何歳でしたか。

図Ⅱ-2-3　ひとり親になったときの１番下の子どもの年齢－過去調査との比較




## 4　ひとり親世帯になった理由

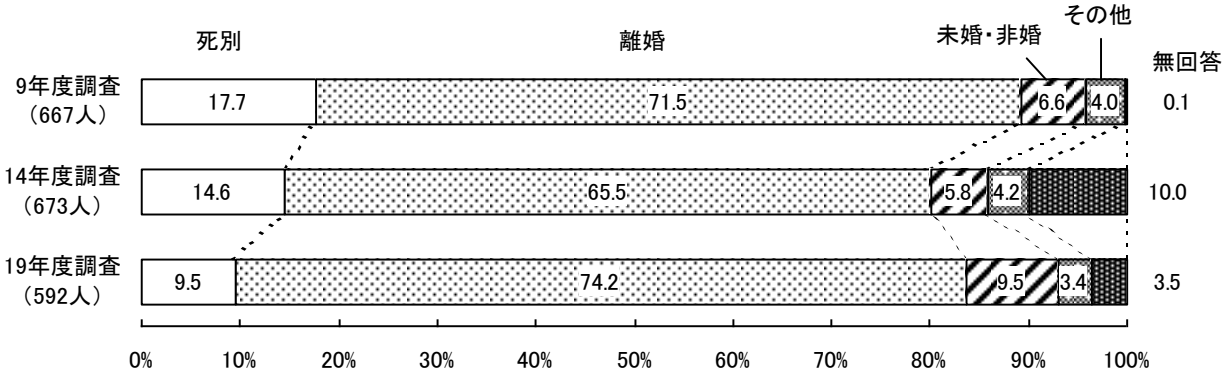
### （1）　ひとり親世帯になった理由－過去調査との比較

**「未婚・非婚」によるひとり親の割合が約１割に上昇**

ひとり親になった理由について聞いたところ、「離婚」が最も多く 74.2%で、14 年度調査に比べて 9 ポイント近く増えている。また、「未婚・非婚」によるひとり親の割合も 14 年度調査に比べて 3.7 ポイント上昇し、9.5%と約１割となった。(図Ⅱ-2-4)

問　ひとり親になった理由についてお聞きします。

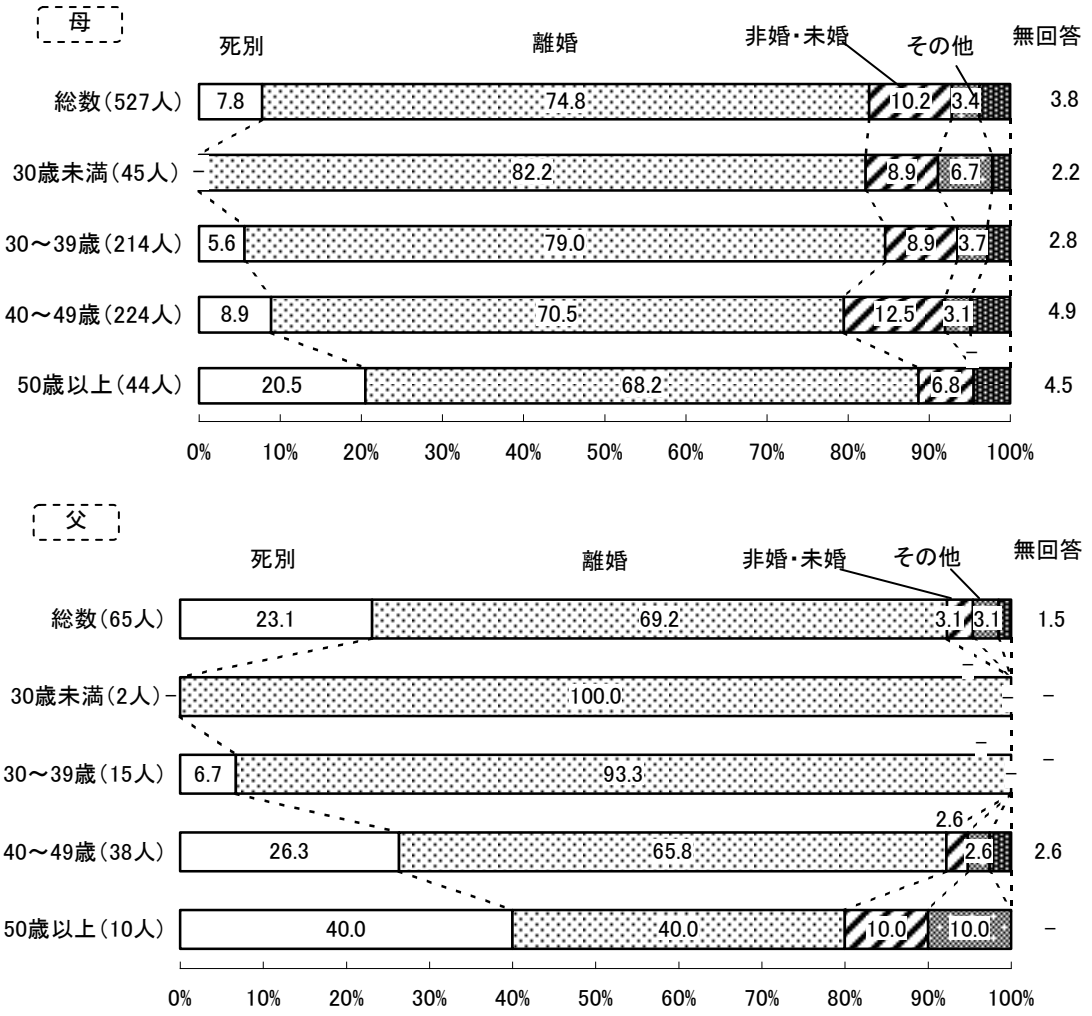
図Ⅱ-2-4　ひとり親になった理由－過去調査との比較



## （２） ひとり親世帯になった理由－父母の性・年齢階級別

ひとり親になった理由を父母の性･年齢階級別にみると､｢離婚｣による割合は､母親が 74.8%、父親が 69.2%で、父母とも年齢が上がるにつれ、その割合は下がっている。また、｢死別｣による割合は、父親が 23.1%であるのに対し、母親は 7.8%となっている。(図Ⅱ-2-5)

図Ⅱ-2-5　ひとり親世帯になった理由－父母の性・年齢階級別



## ５　ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること

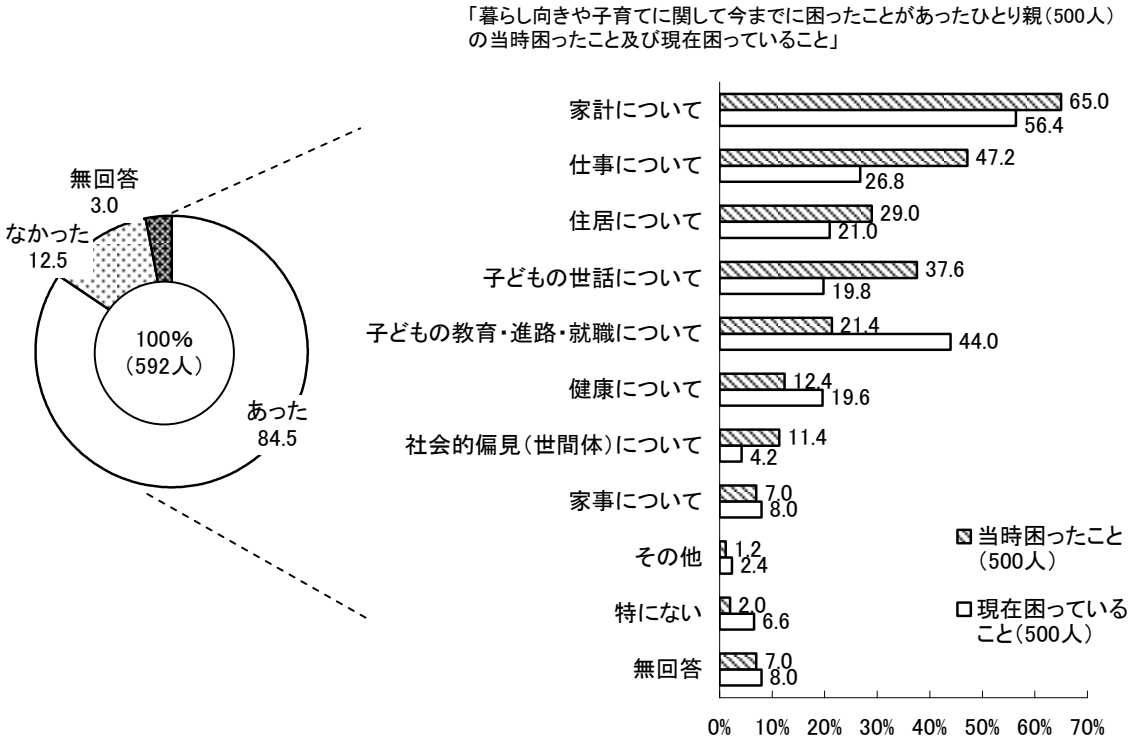
### （１）　ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること〔複数回答〕

暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあったか聞いたところ、84.5％が「あった」と回答した。また、「あった」と回答した 500 人にその内容を聞いたところ、ひとり親になった当時、現在ともに「家計について」が最も多く、それぞれ 65.0％、56.4％となっている。

ひとり親になった当時と現在で大きな差がみられたのは「子どもの教育・進路・就職について」で、当時困った割合が 21.4％であるのに対し、現在困っている割合は 44.0％と倍増している。（図Ⅱ-2-6）

| 問　あなたは、暮らし向きのことや子育てに関して今までに何か困ったことがありましたか。 | 問　あなたがひとり親になったときに困ったことは何ですか？また、現在困っていることは何ですか。 |
|---|---|

図Ⅱ-2-6　ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること



## （2） ひとり親世帯になった当時困ったこと〔複数回答〕

### －ひとり親になったときの親の年齢別

ひとり親世帯になった当時困ったことについて、ひとり親になったときの親の年齢別にみると、30 歳未満のときにひとり親になった人では「家計について」（82.0%）、と「仕事について」（59.5%）の割合が高いのが目立つ。また、「子どもの教育・進路・就職について」の割合は、40 歳以上で高くなっている。（表Ⅱ-2-1）

**表Ⅱ-2-1　ひとり親世帯になった当時困ったこと〔複数回答〕**

**－ひとり親になったときの親の年齢別**

| | 総数 | 家計について | 仕事について | 住居について | 家事について | 健康について | 子どもの世話について | 子どもの教育・進路・就職について | 社会的偏見（世間体）について | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0<br>(455) | 71.4 | 51.9 | 31.9 | 7.7 | 13.6 | 41.3 | 23.5 | 12.5 | 1.3 |
| 30歳未満 | 100.0<br>(111) | 82.0 | 59.5 | 36.0 | 3.6 | 15.3 | 42.3 | 11.7 | 14.4 | － |
| 30～39歳 | 100.0<br>(249) | 68.3 | 53.8 | 30.9 | 6.0 | 13.3 | 43.0 | 22.1 | 14.1 | 1.2 |
| 40歳以上 | 100.0<br>(88) | 65.9 | 37.5 | 29.5 | 17.0 | 12.5 | 37.5 | 40.9 | 4.5 | 2.3 |

（注）総数 455 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 500 人のうち、ひとり親になった当時困ったことがあったと回答したもの（ひとり親になった当時は困ったことは特になかった 10 人と無回答の 35 人は除く。）。

### （3） ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父母の年齢別

ひとり親世帯になって現在困っていることについて、父母の年齢別にみると、「家計について」の割合は、30 歳未満（78.9%）、30～39 歳（70.4%）でそれぞれ 7 割を超えている。「子どもの教育・進路・就職について」の割合は、40～49 歳（58.2%）、50 歳以上(58.3%)で 6 割弱となっている。また、「健康について」の割合は、50 歳以上が 41.7%と他の年齢階級よりも高いのが目立つ。(表Ⅱ-2-2)

**表Ⅱ-2-2 ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父母の年齢別**

| | 総数 | 家計について | 仕事について | 住居について | 家事について | 健康について | 子どもの世話について | 子どもの教育・進路・就職について | 社会的偏見（世間体）について | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0<br>(427) | 66.0 | 31.4 | 24.6 | 9.4 | 23.0 | 23.2 | 51.5 | 4.9 | 2.8 |
| 30歳未満 | 100.0<br>(38) | 78.9 | 44.7 | 42.1 | 10.5 | 13.2 | 26.3 | 28.9 | 7.9 | － |
| 30～39歳 | 100.0<br>(169) | 70.4 | 32.5 | 26.0 | 8.9 | 17.8 | 28.4 | 47.9 | 4.7 | 1.8 |
| 40～49歳 | 100.0<br>(184) | 59.2 | 28.8 | 21.2 | 8.7 | 26.1 | 20.1 | 58.2 | 4.9 | 4.3 |
| 50歳以上 | 100.0<br>(36) | 66.7 | 25.0 | 16.7 | 13.9 | 41.7 | 11.1 | 58.3 | 2.8 | 2.8 |

（注）総数 427 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 500 人のうち、現在困っていることがあると回答したもの（現在は、困っていることは特にない 33 人と無回答の 40 人は除く。）。

### （4） ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

ひとり親世帯になって現在困っていることについて、母親の従業上の地位別にみると、「家計について」困っていると答えた割合は、パート・アルバイトで 82.9%と最も高い。また、「住居について」困っていると答えた割合も、38.8%と高くなっている。（表Ⅱ-2-3）

表Ⅱ-2-3 ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

| | | 総数 | 家計について | 仕事について | 住居について | 家事について | 健康について | 子どもの世話について | 子どもの教育・進路・就職について | 社会的偏見（世間体）について | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | | 100.0<br>(386) | 70.2 | 31.6 | 26.2 | 6.0 | 23.6 | 21.0 | 49.7 | 5.2 | 2.8 |
| 就業 | | 100.0<br>(336) | 70.5 | 27.7 | 28.9 | 6.0 | 20.5 | 21.1 | 49.7 | 5.4 | 2.1 |
| | 自営業 | 100.0<br>(16) | 75.0 | 31.3 | 6.3 | 12.5 | 25.0 | 31.3 | 37.5 | 6.3 | － |
| | 正規の職員・従業員 | 100.0<br>(130) | 56.2 | 25.4 | 19.2 | 7.7 | 21.5 | 26.9 | 52.3 | 6.9 | 0.8 |
| | 会社・団体等の役員 | 100.0<br>(6) | 66.7 | － | 16.7 | 16.7 | － | 33.3 | 66.7 | － | － |
| | パート・アルバイト | 100.0<br>(152) | 82.9 | 30.9 | 38.8 | 3.3 | 17.8 | 15.1 | 51.3 | 4.6 | 2.6 |
| | 労働者派遣事業所の派遣社員 | 100.0<br>(16) | 75.0 | 25.0 | 31.3 | 6.3 | 25.0 | 25.0 | 31.3 | － | 6.3 |
| | 契約職員・嘱託、その他 | 100.0<br>(9) | 53.8 | 15.4 | 38.5 | 7.7 | 15.4 | 7.7 | 15.4 | 7.7 | － |
| 非就業 | | 100.0<br>(50) | 68.0 | 58.0 | 8.0 | 6.0 | 44.0 | 20.0 | 50.0 | 4.0 | 8.0 |

（注）総数 386 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 500 人のうち、現在困っていることがあると回答した母 386 人（現在は、困っていることは特にない 30 人と無回答の 36 人は除く。）

### （５） ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父親の従業上の地位別

父親がひとり親世帯になって現在困っていることは、「子どもの教育・進路・就職について」の割合が最も高く 68.3%、次いで、「家事について」の 41.5%となっている。
（表Ⅱ-2-4）

**表Ⅱ-2-4　ひとり親世帯になって現在困っていること〔複数回答〕－父親の従業上の地位別**

| | | 総数 | 家計について | 仕事について | 住居について | 家事について | 健康について | 子どもの世話について | 子どもの教育・進路・就職について | 社会的偏見（世間体）について | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | | 100.0<br>(41) | 26.8 | 29.3 | 9.8 | 41.5 | 17.1 | 43.9 | 68.3 | 2.4 | 2.4 |
| 就業 | | 100.0<br>(40) | 27.5 | 30.0 | 10.0 | 40.0 | 17.5 | 42.5 | 67.5 | 2.5 | 2.5 |
| | 自営業 | 100.0<br>(11) | 36.4 | － | 18.2 | 72.7 | 18.2 | 27.3 | 81.8 | 9.1 | － |
| | 正規の職員・従業員 | 100.0<br>(23) | 30.4 | 34.8 | 8.7 | 34.8 | 17.4 | 43.5 | 56.5 | － | 4.3 |
| | 会社・団体等の役員 | 100.0<br>(4) | － | 50.0 | － | － | － | 75.0 | 75.0 | － | － |

（注）総数 41 人は、暮らし向きのことや子育てに関して今までに困ったことがあった 500 人のうち、現在困っていることがあると回答した父 41 人（現在は、困っていることは特にない 3 人と無回答の 4 人は除く。）

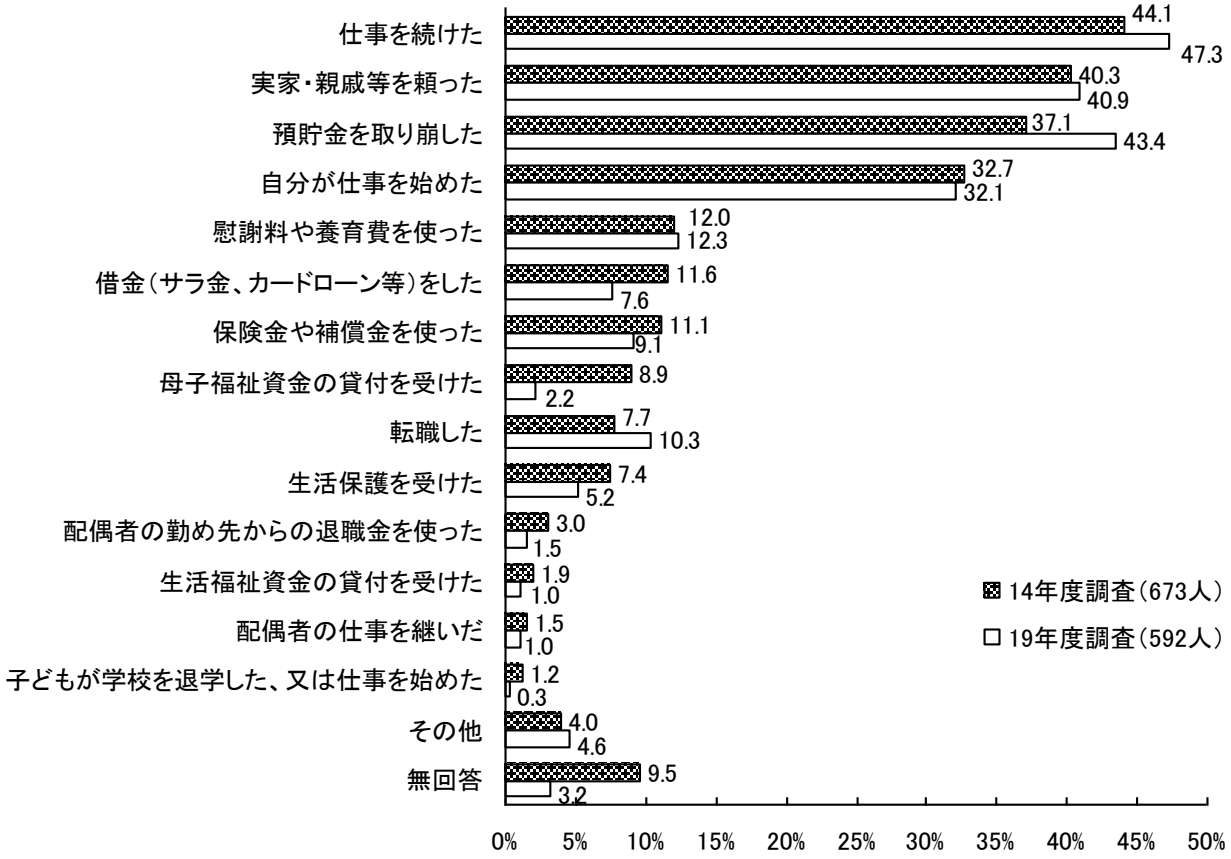
## ６　ひとり親世帯になった当時暮らしのためにしたこと

### （１）　ひとり親になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕－前回調査との比較

ひとり親になった当時、暮らしを立てる上でどうしたか聞いたところ、「仕事を続けた」の割合が最も高く 47.3%、次いで「預貯金を取り崩した」の 43.4%となっている。「預貯金を取り崩した」は 14 年度に比べて、6 ポイント以上、上昇している。(図Ⅱ-2-7)

あなたは、ひとり親世帯になった当時、暮らしを立てる上で、どうされましたか。

図Ⅱ-2-7　ひとり親になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕－前回調査との比較



## （2） ひとり親世帯になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕
### －ひとり親世帯になったときの１番下の子どもの年齢別

ひとり親になった当時暮らしのためにしたことについて、ひとり親になったときの１番下の子どもの年齢別にみると、「自分が仕事を始めた」の割合は1～3歳未満が48.2%と最も高く、12歳以上では、「預貯金を取り崩した」の割合は50.0%と５割を占めた。(表Ⅱ-2-5)

### 表Ⅱ-2-5 ひとり親世帯になった当時暮らしのためにしたこと〔複数回答〕
### －ひとり親世帯になったときの１番下の子どもの年齢別

| | 総数 | 仕事を続けた | 配偶者の仕事を継いだ | 自分が仕事を始めた | 子どもが学校を退学した、又は仕事を始めた | 預貯金を取り崩した | 配偶者の勤め先からの退職金を使った | 転職した | 慰謝料や養育費を使った | 保険金や補償金を使った | 実家・親戚等を頼った | 母子福祉資金の貸付を受けた | 生活福祉資金の貸付を受けた | 借金（サラ金、カードローン等）をした | 生活保護を受けた | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0 (592) | 47.3 | 1.0 | 32.1 | 0.3 | 43.4 | 1.5 | 10.3 | 12.3 | 9.1 | 40.9 | 2.2 | 1.0 | 7.6 | 5.2 | 4.6 | 3.2 |
| 1歳未満 | 100.0 (115) | 31.3 | 1.7 | 36.5 | － | 43.5 | 2.6 | 10.4 | 6.1 | 7.0 | 49.6 | 1.7 | 0.9 | 11.3 | 7.0 | 5.2 | － |
| 1～3歳未満 | 100.0 (114) | 39.5 | － | 48.2 | 0.9 | 43.0 | 0.9 | 8.8 | 12.3 | 6.1 | 49.1 | 1.8 | － | 8.8 | 7.0 | 5.3 | 1.8 |
| 3～6歳未満 | 100.0 (149) | 49.0 | 0.7 | 34.9 | － | 46.3 | 0.7 | 13.4 | 12.8 | 10.7 | 42.3 | 3.4 | 2.0 | 4.7 | 4.7 | 2.7 | 0.7 |
| 6～9歳未満 | 100.0 (93) | 61.3 | 1.1 | 24.7 | － | 46.2 | 2.2 | 10.8 | 21.5 | 11.8 | 39.8 | 2.2 | 2.2 | 8.6 | 3.2 | 4.3 | － |
| 9～12歳未満 | 100.0 (54) | 68.5 | 1.9 | 14.8 | 1.9 | 40.7 | － | 9.3 | 13.0 | 11.1 | 29.6 | 1.9 | － | 9.3 | － | 7.4 | － |
| 12歳以上 | 100.0 (42) | 66.7 | 2.4 | 21.4 | － | 50.0 | 4.8 | 7.1 | 11.9 | 14.3 | 28.6 | 2.4 | － | 4.8 | 7.1 | 4.8 | － |

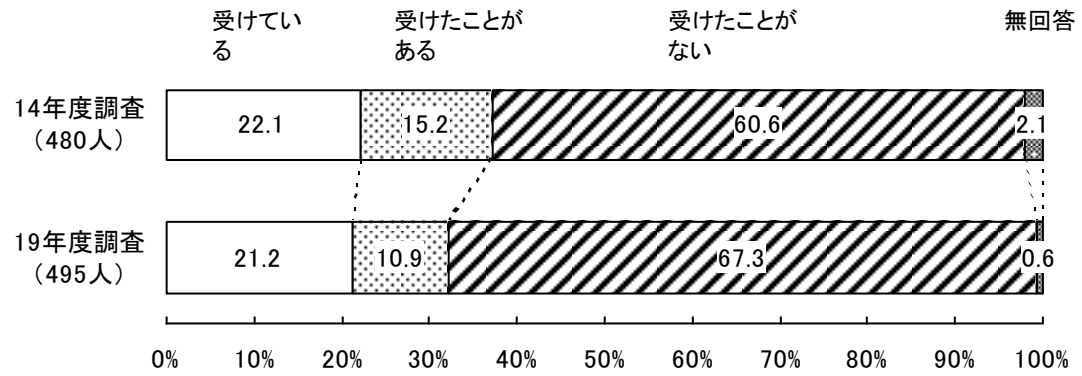
# 第３章　養育費について

## １　養育費受取の有無

### （１）　養育費受取の有無－前回調査との比較

ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である 495 人に、離別した子どもの母親又は父親から養育費を受けているか聞いたところ、「受けたことがない」が 67.3％で、平成 14 年度に比べて７ポイント近く高くなっている。（図Ⅱ-3-1）

図Ⅱ-3-1　養育費受取の有無－前回調査との比較



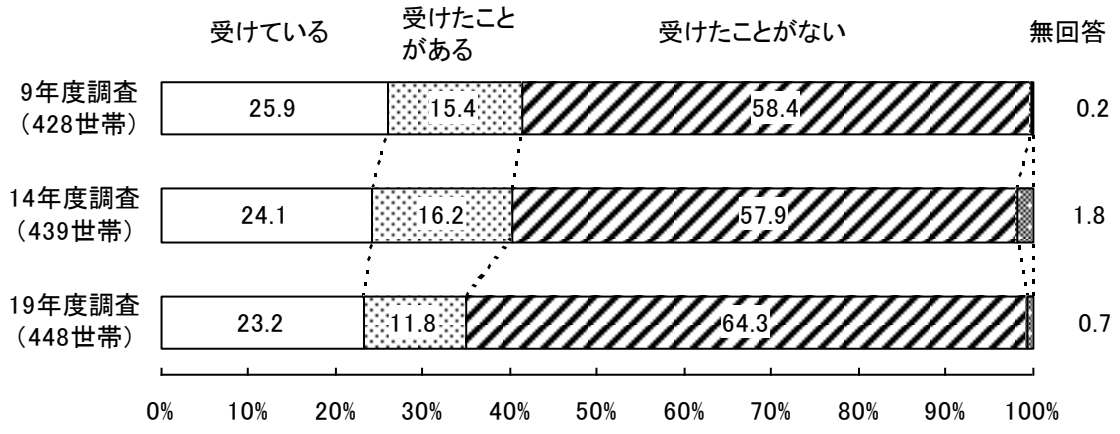

（注）　東京都では、養育費の取得率向上を図ることなどを目的とし、平成20年度から養育費相談体制の拡充を図っている。

### （２）　養育費受取の有無（母子世帯）－過去調査との比較

母子世帯で養育費を「受けたことがない」割合は、6 割弱に上昇

養育費受取の有無（母子世帯）を過去調査との比較でみてみると、「受けたことがない」の割合は、19 年度調査では 64.3％となり、前回調査（14 年度調査）の 57.9％よりも上昇した。（図Ⅱ-3-2）

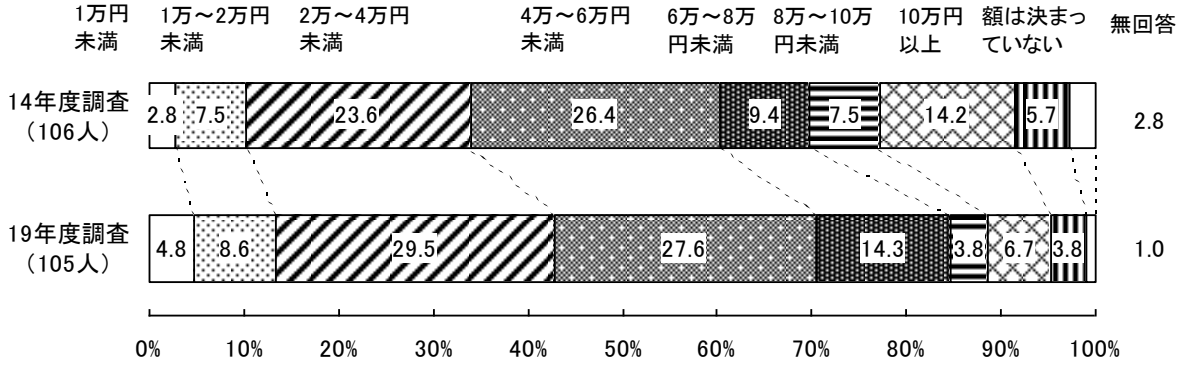
図Ⅱ-3-2　養育費受取の有無（母子世帯）－過去調査との比較



## ２　１か月の養育費の額－前回調査との比較

養育費を「受けている」と答えた 105 人に１か月の金額を聞いたところ、「2 万～4 万円未満」の割合が 29.5％と最も高く、14 年度と比較して 5.9 ポイント上昇した。（図Ⅱ-3-3）

図Ⅱ-3-3　１か月の養育費の額－前回調査との比較



# 第４章　公的制度について

## １　制度利用の有無と制度を利用していない理由

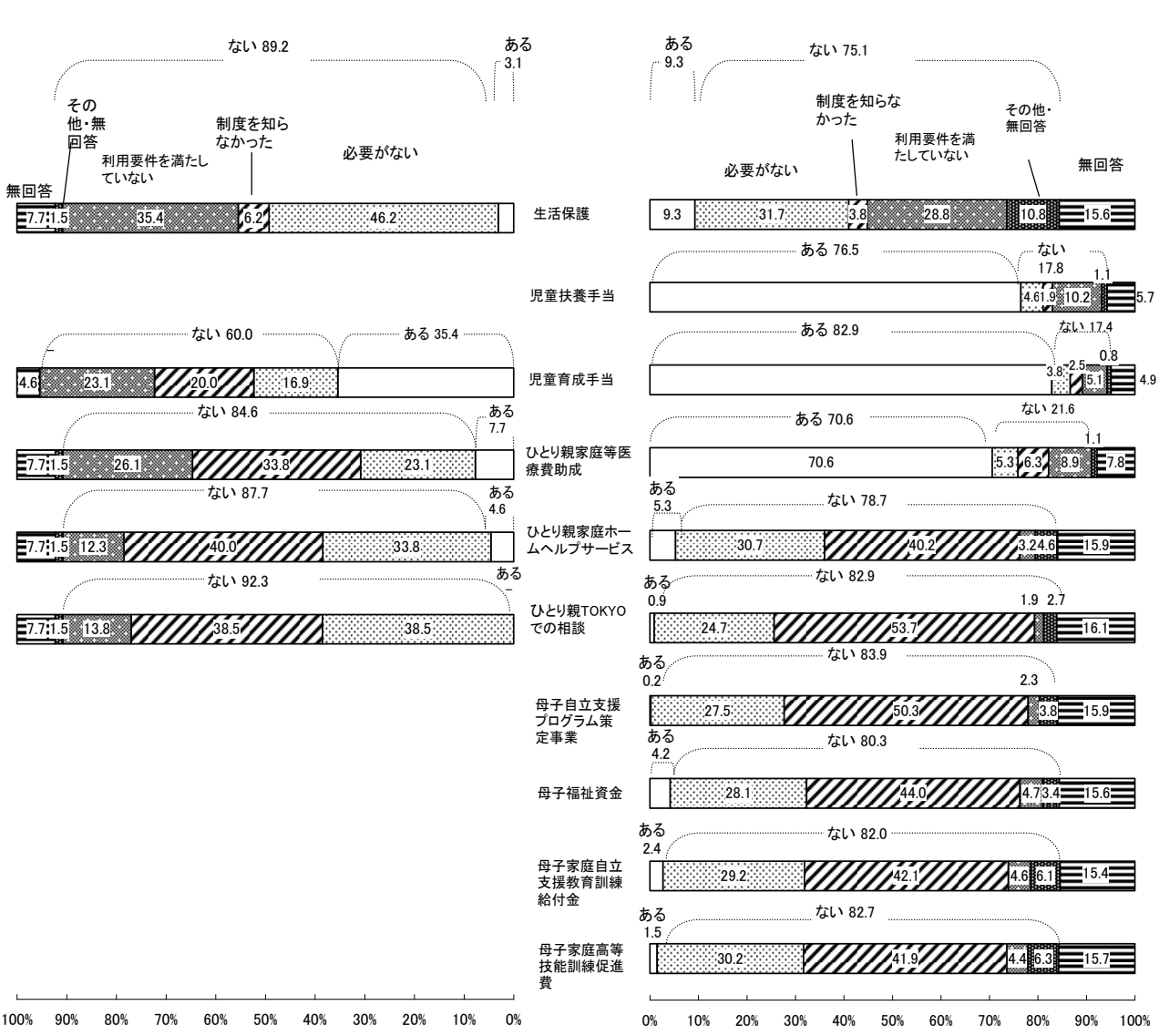
### （１）　制度利用の有無と制度を利用していない理由－世帯類型（母子・父子世帯）別

公的制度の利用の有無について聞いたところ、利用したことが「ある」と答えた割合が高い制度は、父子・母子世帯ともに、児童扶養手当（母子のみ 76.5%）及び児童育成手当（父子 35.4%、母子 82.9%）の割合が高い。

母子世帯では、ひとり親 TOKYO での相談、母子自立支援プログラム策定事業について「制度を知らなかった」と答えた割合がそれぞれ５割以上であった。（図Ⅱ-4-1）

> 問　あなたは次の公的制度を利用したことがありますか。
> 　　また、利用したことがない場合は、その理由もお答えください。

図Ⅱ-4-1　制度利用の有無と制度を利用していない理由－世帯類型（母子・父子世帯）別

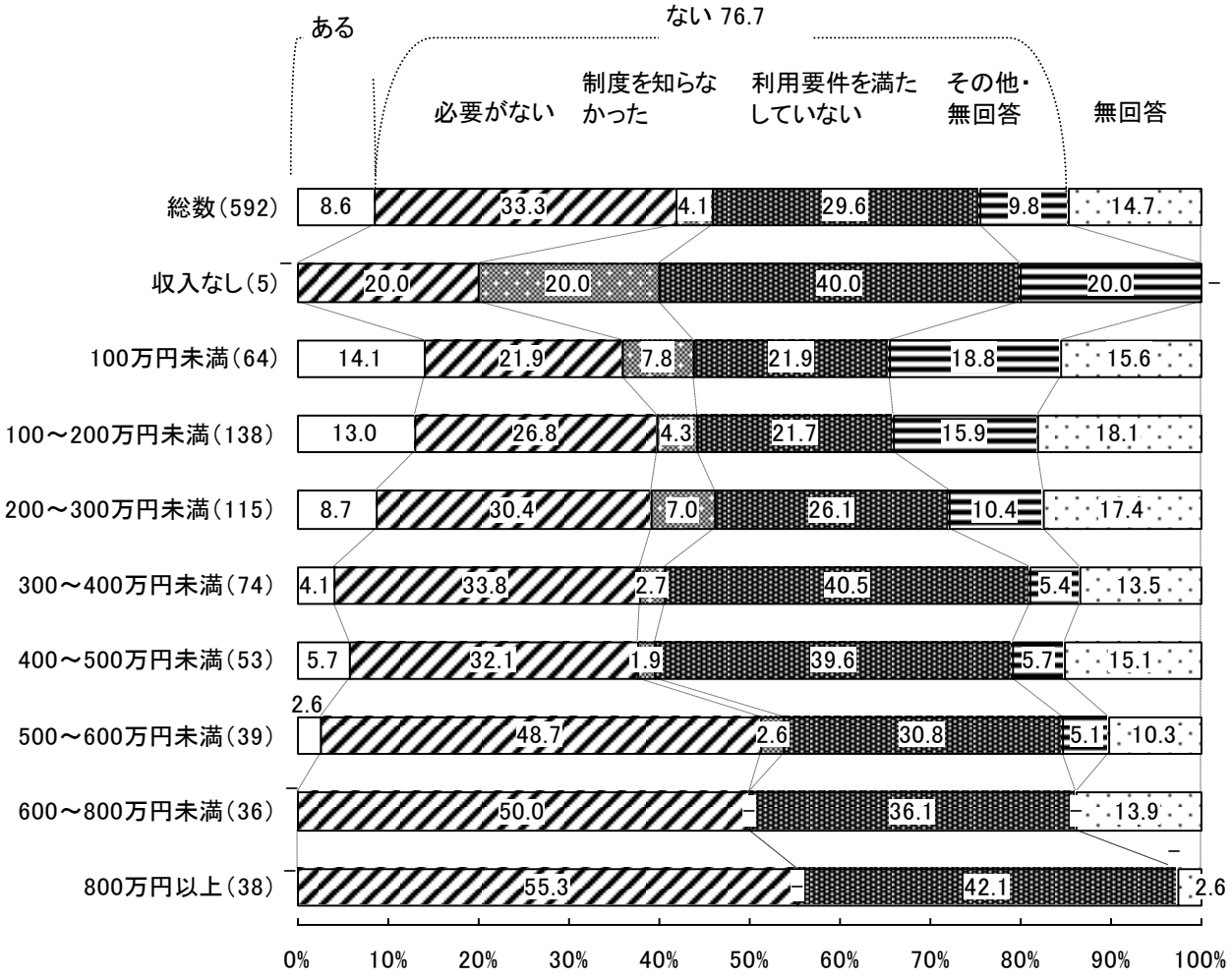



（注）父子世帯の空欄部分は、原則として父子世帯では制度が利用できないもの。

### （２） 制度利用（生活保護）の有無と制度を利用していない理由－世帯の年間収入別

公的制度の利用（生活保護）の有無と制度を利用していない理由について世帯の年間収入別にみると生活保護を利用したことが「ある」割合は、100 万円未満（14.1%）と 100～200 万円未満（13.0%）が高くなっている。（図Ⅱ-4-2）

図Ⅱ-4-2　制度利用（生活保護）の有無と制度を利用していない理由－世帯の年間収入別



### （３） 制度利用（生活保護）の有無－父母の年齢階級別

公的制度の利用（生活保護）の有無について父母の年齢階級別にみると、生活保護を利用したことが「ある」割合は、母子世帯では29歳以下（15.6%）と、30～39歳（11.7%）の年齢階級で高くなっている。（表Ⅱ-4-2）

表Ⅱ-4-1　制度利用（生活保護）の有無－父親の年齢階級別

| | 総数 | ある | ない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0<br>(65) | 3.1 | 89.2 | 7.7 |
| 29歳以下 | 100.0<br>(2) | － | 100.0 | － |
| 30～39歳 | 100.0<br>(15) | 6.7 | 93.3 | － |
| 40～49歳 | 100.0<br>(38) | － | 86.8 | 13.2 |
| 50～59歳 | 100.0<br>(10) | 10.0 | 90.0 | － |
| 平均(歳) | 42.74 | 46.00 | 42.48 | 44.40 |

表Ⅱ-4-2　制度利用（生活保護）の有無－母親の年齢階級別

| | 総数 | ある | ない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0<br>(527) | 9.3 | 75.1 | 15.6 |
| 29歳以下 | 100.0<br>(45) | 15.6 | 80.0 | 4.4 |
| 30～39歳 | 100.0<br>(214) | 11.7 | 77.1 | 11.2 |
| 40～49歳 | 100.0<br>(224) | 5.8 | 72.8 | 21.4 |
| 50歳以上 | 100.0<br>(44) | 9.1 | 72.7 | 18.2 |
| 平均(歳) | 39.73 | 38.02 | 39.41 | 42.30 |

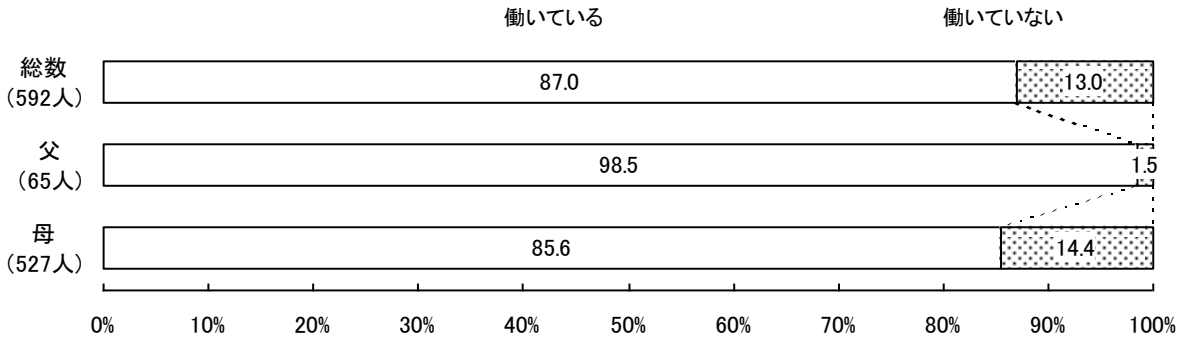
# 第５章　就労について

## １　父母の就労状況

### （１）　就労状況

就労状況をみると、調査基準日（平成 19 年 10 月 27 日）現在、「働いている」人の割合は、父親が 98.5%、母親が 85.6%である。(図Ⅱ-5-1)

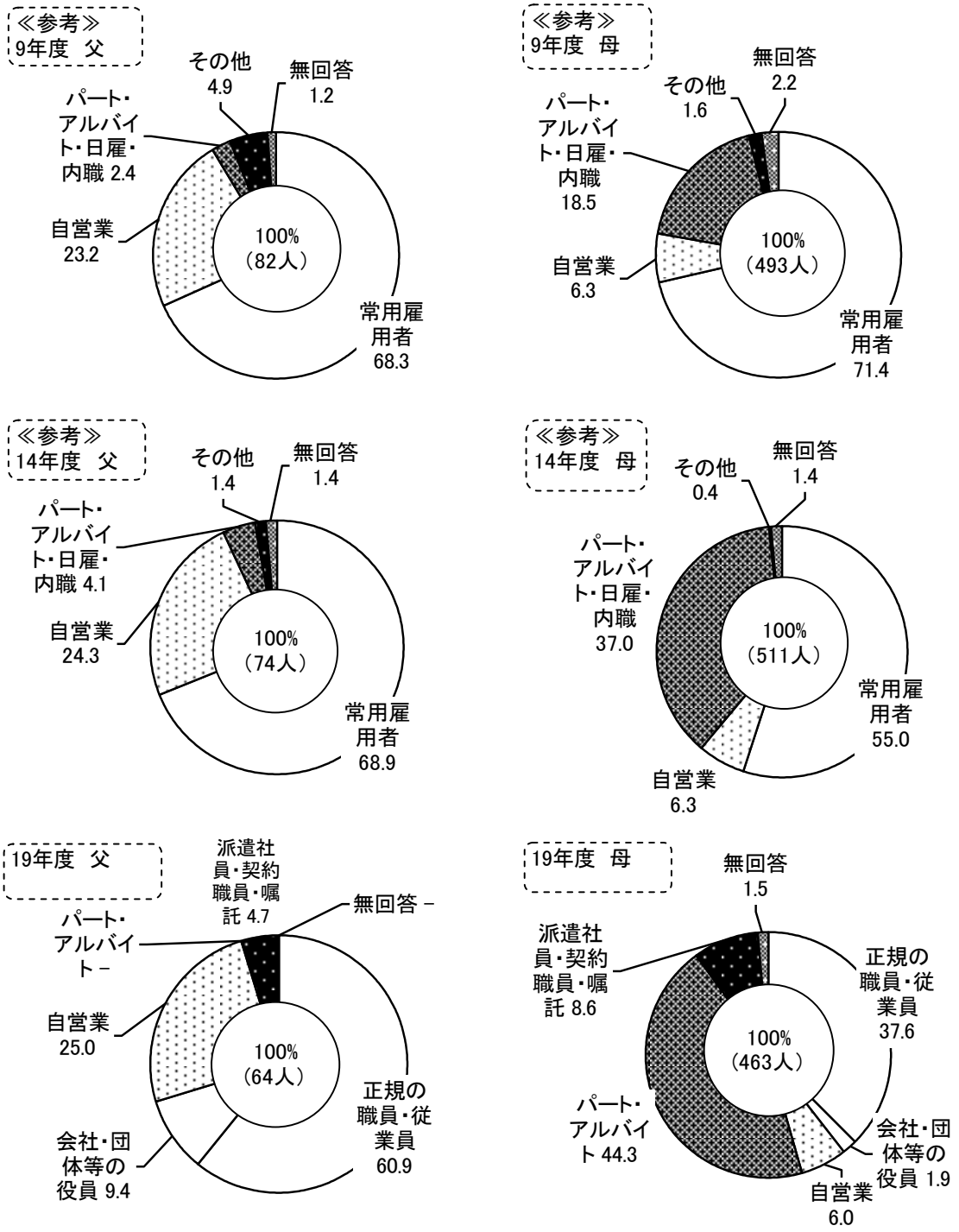
図Ⅱ-5-1　就労状況－前回調査との比較



## （2） 従業上の地位－過去調査との比較

現在就業している父 65 人と母 527 人の従業上の地位をみると、父親は「正規の職員・従業員（常用雇用者)」の割合が 60.9%と最も高く、母親は「パート・アルバイト」が 44.3%と最も高くなっている。(図Ⅱ-5-2)

図Ⅱ-5-2　従業上の地位－過去調査との比較

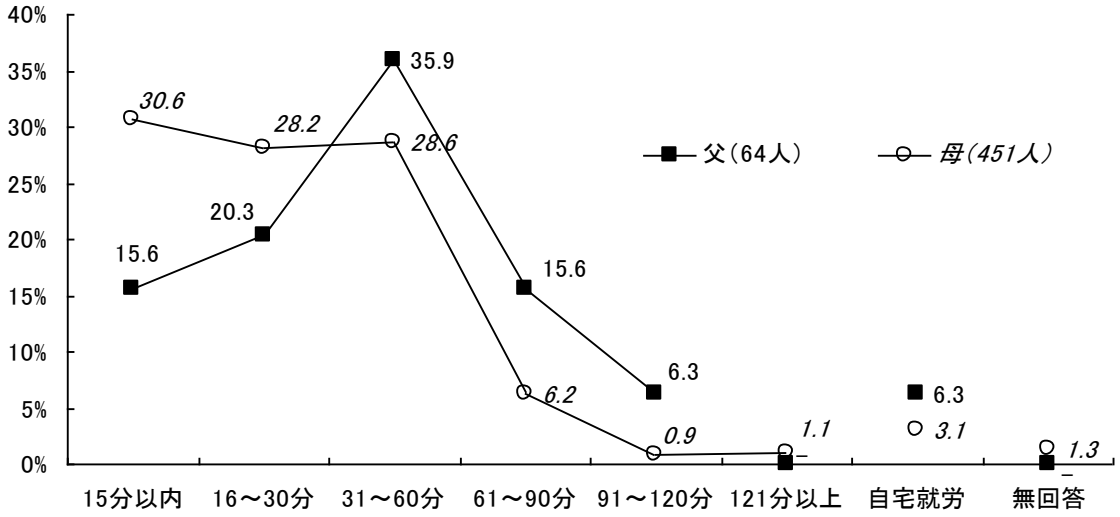



（注）19 年度調査の「会社・団体等の役員」「派遣社員・契約職員・嘱託等」は新たに選択肢として設けたものである。

### （３） 通勤時間

現在働いている父親 64 人、母親 451 人について、通勤時間をみると、父親は「31～60 分」の割合が 35.9％と最も高く、母親は「15 分以内」の割合が 30.6％と最も高い。（図Ⅱ-5-3）

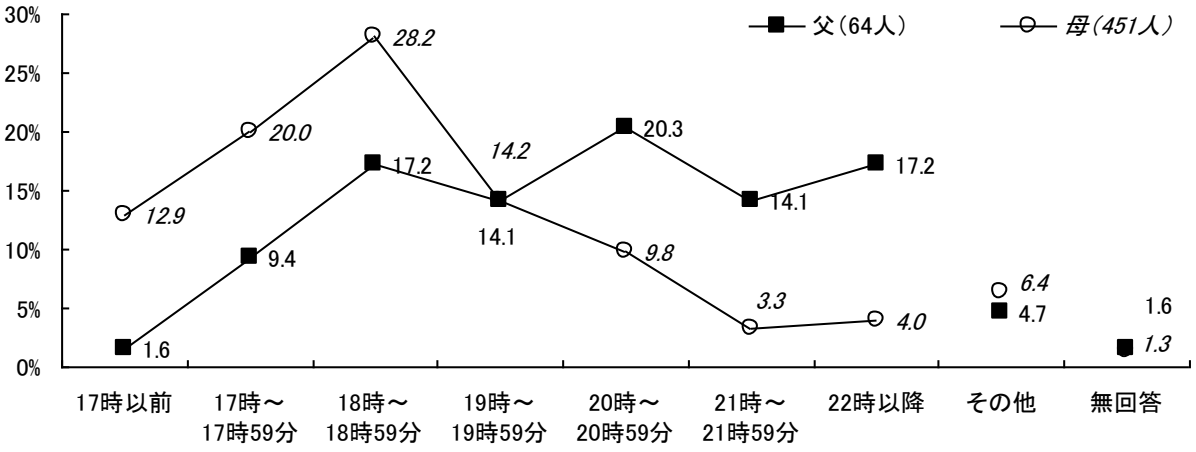
**図Ⅱ-5-3　通勤時間**




### （４） 帰宅時間

帰宅時間をみると、父親は「20 時～20 時 59 分」の割合が 20.3％と最も高いのに対して、母親は「18 時～18 時 59 分」が 28.2％と最も高い。（図Ⅱ-5-4）

**図Ⅱ-5-4　帰宅時間**



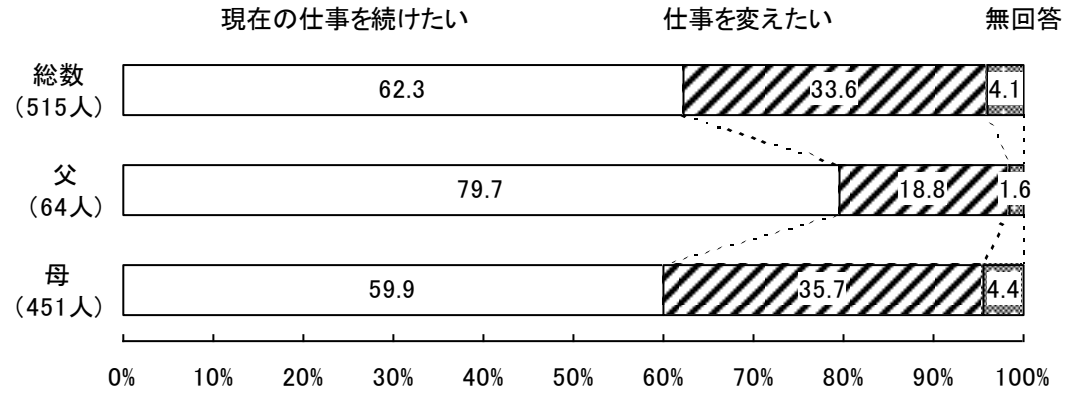
## 2　転職希望

### （1）　転職の希望

現在仕事をしている 515 人に転職をしたいか聞いたところ、「現在の仕事を続けたい」の割合が 62.3%、「仕事を変えたい」の割合は 33.6%であった。父母別にみると「仕事を変えたい」の割合は母親が 35.7%、父親が 18.8%であった。（図Ⅱ-5-5）

問　あなたは、転職する希望がありますか。

図Ⅱ-5-5　転職の希望

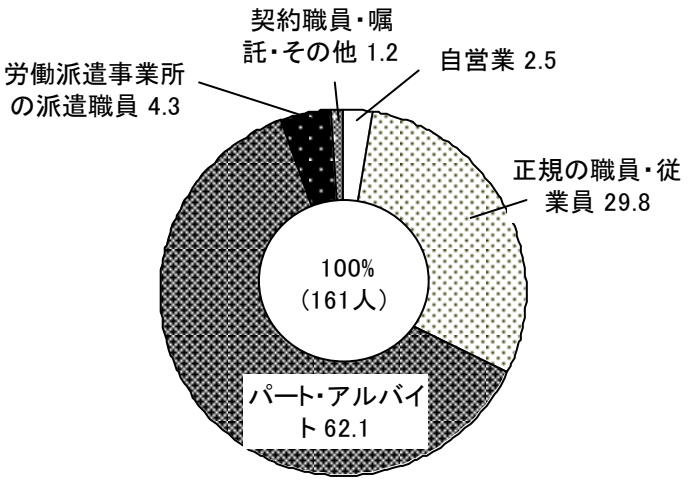



（注）総数 515 人は、現在、働いている人で、職場に籍は置いているが、産休・育児休業中や病気等で休んでいる人は除く。

### （2）　転職希望者－母親の従業上の地位別

現在の「仕事を変えたい」と答えた母親 161 人について、従業上の地位別にみたところ、「パート・アルバイト」の割合が 62.1%と最も高かった。（図Ⅱ-5-6）

図Ⅱ-5-6　転職希望者－母親の従業上の地位別




（注）父親は、転職希望者が 12 人のため省略した。

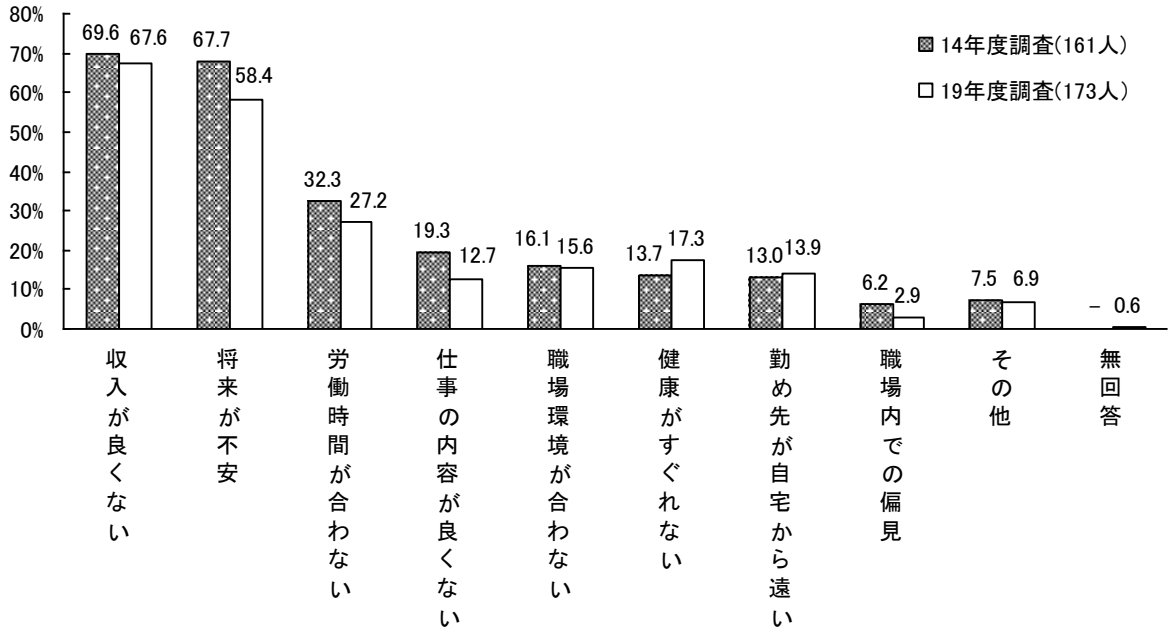
## 3　仕事を変えたい理由

### （1）　仕事を変えたい理由〔複数回答〕－前回調査との比較

「仕事を変えたい」と回答した 173 人に、仕事を変えたい理由を聞いたところ、「収入が良くない」の割合が最も高く 67.6%、次いで「将来が不安」の 58.4%で、それぞれ半数を超えている。(図Ⅱ-5-7)

問　仕事を変えたい理由は何ですか。

図Ⅱ-5-7　仕事を変えたい理由〔複数回答〕－前回調査との比較




### （2）　仕事を変えたい理由〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

仕事を変えたい理由を母親の従業上の地位別にみると、「収入が良くない」の割合は、パート・アルバイトが 74.0%と最も高く、「将来が不安」の割合は、労働者派遣事業所の派遣社員が 71.4%、パート・アルバイトが 66.0%と高くなっている。(表Ⅱ-5-1)

表Ⅱ-5-1　仕事を変えたい理由〔複数回答〕－母親の従業上の地位別

| | 総数 | 収入が良くない | 勤め先が自宅から遠い | 健康がすぐれない | 仕事の内容が良くない | 職場環境が合わない | 労働時間が合わない | 将来が不安 | 職場内でのひとり親に対する偏見 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 100.0 (161) | 67.7 | 11.8 | 17.4 | 12.4 | 15.5 | 26.1 | 57.8 | 2.5 | 7.5 | 0.6 |
| 自営業 | 100.0 (4) | 25.0 | － | 75.0 | － | － | － | 25.0 | － | 25.0 | 25.0 |
| 正規の職員・従業員 | 100.0 (48) | 62.5 | 22.9 | 12.5 | 10.4 | 16.7 | 41.7 | 41.7 | 2.1 | 4.2 | － |
| パート・アルバイト | 100.0 (100) | 74.0 | 6.0 | 19.0 | 14.0 | 16.0 | 21.0 | 66.0 | 3.0 | 7.0 | － |
| 労働者派遣事業所の派遣社員 | 100.0 (7) | 28.6 | 14.3 | － | 14.3 | 14.3 | 14.3 | 71.4 | － | 28.6 | － |

(注) 父親は、転職希望者が 12 人のため省略した。